

2008年7月2日

報道各位

関西学院広報室

TEL:0798-54-6017

FAX:0798-51-0912

財団法人近江兄弟社との学術連携協力の協定締結について

平素は関西学院大学に格別のご高配を賜り、ありがとうございます。

関西学院大学は7月1日、財団法人近江兄弟社（滋賀県近江八幡市）と「学術連携協力に関する協定書」を締結しました。

今後、本協定に基づき、かねてより関西学院大学において進められてきたヴォーリズに関する研究を同社との共同作業として推進し、同社創設者W.M.ヴォーリズの伝道者、教育者、建築家、事業家としての足跡や思想などの研究をさらに深めるとともに、ヴォーリズを通じて果たされたキリスト教を背景とする教育・社会事業などによる社会貢献のあり方・可能性をも求めるものとなります。その活動の一環として、近江兄弟社ヴォーリズ記念館所蔵の資料の整理、保存などの作業を推進することになっています。

その成果については、順次近江兄弟社および関西学院大学による研究成果としてまとめるべく研究を進めてまいります。

【関西学院とW.M.ヴォーリズ】

W.M.ヴォーリズと関西学院第4代院長C.J.L.ベーツとは、カナダで「海外学生伝道奉仕団」に参加した旧友であり、ヴォーリズは1905年の来日直後に、当時神戸近郊にあった関西学院の原田キャンパスを訪問しています。ヴォーリズが建築家として本格的に取り組んだ最初の作品が、同キャンパスの神学館（1912年）であり、以後、同校地の大半の校舎建築を手がけました。関西学院が1929年、原田から現在の西宮上ヶ原キャンパスに移転した際は、その全体的な基本デザインと各校舎の設計を担当。公道から正門 - 中央芝生 - 時計台 - 甲山山頂へと貫く軸線を基本とする全体設計と校舎配置、赤い瓦屋根とスタッコ壁が特徴のスパニッシュ・ミッション・スタイルで統一された建物など、その後の関西学院の校風やイメージ、アイデンティティの形成に多大な影響を与えています。

以上